

売り上げ激減の裏で 御前崎波乗り青空食堂を発案

岸和田 光弘 さん



現在、中町にある『情熱御前崎居酒屋ありがとう』など飲食店を3店舗経営している岸和田光弘さん。「2月下旬から売り上げが落ち始め、3・4月は激減しました。客足は良くても5～6割しか戻らないと予想しています」と語る。「こんな状況で私のような飲食店経営者が地域にできることはなんだろう」と考え続けた結果、5月中旬から下旬まで市役所前で弁当を販売する「御前崎波乗り青空食堂」を発案するに至った。岸和田さんの呼び掛けに市内7店舗が賛同。「新

型コロナウイルスで打撃を受けている飲食店同士で結束し、今後も協力し合える関係を築きたかった」とも話す。

これから第2波、第3波の到来が予想されている。岸和田さんは「減ってしまった客足を元に戻すのは大変なこと。全国のお店が模索していると思います。それでも私たちがやるべきことは変わりません。それは『市民の皆さんが笑顔になってもらうには何をしたら良いか』を考えて行動することだと思います」と前を見据えている。



一方、ウイルスがもたらした副産物もあった。それは、仕事や育児などの忙しさから忘れていた「家族との時間の尊さに気付けたこと」や「これまで当たり前だと思っていたことにありがたみを感じたこと」などだ。大勢の人が、自粛期間中に家族と過ごすことや自分の時間を持つことができたことで、自身の生活や考え方を直すことができたのではないだろうか。

私たちの生活に甚大な被害をもたらした新型コロナウイルス。日本では第二波の到来が予想されている。また、世界各地では感染者が増加し、被害は拡大の一途をたどっている。

非日常を日常に アイデアで現状を打破

ずっと制限を強いられているような中で、どうしたら笑顔で暮らせるようになるのか。4組の話から新しい生活のヒントを模索する。

自宅待機の生徒に向け オンライン授業を展開

長谷川 延明 校長 (右)
酒井 陽介 教諭 (左)



休校中に生徒への『学習支援』が必要と考えた浜岡中学校は、すぐに長谷川校長が音頭を取り、技術科の酒井教諭が中心となって自宅でもスマートフォンなどの電子機器とインターネット環境があればいつでも授業を受けることができる「オンライン授業」を開始した。酒井教諭は「苦労したのは授業作りですね。しかし、教科の枠を越えて動画作りに励んだり、専門的な知識が豊富なベテランと電子機器の扱いに長けた若手が互いに得意なことを教え合ったりする中で

コミュニケーションも生まれました。教職員にはユニークな人が多いため、この職業に就いて良かったと改めて実感しました」と話した。長谷川校長は「今回、この『オンライン授業』を取り入れたことで、生徒への学習支援の幅は広がったと思います。でもやっぱり、生徒が目の前にいて活けるのが我々教員です。新型コロナウイルスが、生徒が登校することの喜びや人の温かみ、教員という職業の魅力や人を再認識させてくれました」と前向きに捉えた



▲同校は8月6日(休)までの間、子どもを心配する保護者のために、ホームページで休校明けの生徒の様子を動画配信している。